

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	○深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			読・聞・視	書	読					
1 学 期	大正の小説/檸檬（梶井基次郎）	・「私」は「檸檬」をどのように感じているかを本文に沿ってまとめる。 ・「二銭や三銭のもの」といって贅沢なもの。美しいもの—と云って無気力な私の触角にむしろ媚びてくるもの。—そういったものが自然私を慰めるのだ」とは、どういうことかを説明する。 ・「第二のアイディア」からは、「私」のどのような願望がうかがえるかを説明する。 ・心の不可思議さについて、自分が経験したことを八百字程度で書く。	○	○	○	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。	○			8
	大正の小説/探究の扉 秘やかな楽しみ（梶井基次郎）	詩「秘やかな楽しみ」と小説『檸檬』とでは、読者の印象はどのように変わるかを考える。			○ ○	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 小説と詩の違いを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	○		○	2
	読書活動「点検読書／新書」	・新書について知る。 ・奥付の見方を理解する。 ・新書の「点検読書」を通じて、本の選び方や読み方を習得する。 ・図書館の本に触れる。			○	小論文作成や進路活動に生かすために、新書について理解しようとしている。			○	1
	第1学期期末考査			○	○		○	○		1
	文学評論/文学のふるさと（坂口安吾）	・本文にあげられた三つの物語について、筆者はどのような点に着目しているかをそれぞれまとめる。 ・「そこでは、モラルがない、ということ自体がモラルなのだ」「むごたらしいこと、救いがないということ、それだけが、唯一の救いなのであります」「ふるさととは我々のゆりかごではあるけれども、大人の仕事は、決してふるさとへ帰ることではない」とはどういうことかを、それぞれ説明する。 ・筆者は「文学のふるさと」をどのようなものとしてとらえ、文学をどう扱っていかねばならないと考えているかをまとめる。 ・筆者は「伊勢物語の一つの話」を、どのように評価しているかを二百字以内で書く。	○	○	○	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。	○		○	9
問題演習	・現代文の読解問題演習を行う。		○	○		読解問題の解法を身に付けている。				3
第2学期期末考査				○	○		○	○		1
昭和初期の小説/山椒魚（井伏鱒二）	・山椒魚の心情変化をまとめる。 ・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。 ・山椒魚の考え方や行動について、どのような感想を持ったかを話し合う。	○	○	○	人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 考えを整理して山椒魚の考え方や行動に対する感想を述べ、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	○			9	
							○			
								○		
学年末考査				○	○		○	○	1	35